

「今日の説教、聴き手のために」 2008/6/22 明治学院教会(118)

(このプリントは毎週作っているものです) 岩井健作

「あなたがたの義が」 マタイ 5:17-20

選句「あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ・・・」(20節)。

- 1、「義」は、聖書の中心的な概念である。よく把握しておきたい。
新共同訳聖書巻末の「用語解説」では「義は神の属性。・・・」と説明。『岩波キリスト教辞典』には、見出し語「神の義」のみがある。「人間の罪に直面して示される裁きとしての神の義(<分配的正義>の正当性)がキリストの十字架において遂行され、これによって罪人であるわれわれが<神の義>とされた」。参照「神の恵みにより無償で義とされる」(ローマ3:24)、「罪と何のかかわりもない方・・・によって神の義を得ることができた」(コリⅡ5:21)。「義」は神の本質。日本基督教団信仰告白も「神は恵みをもて我らを選び、ただキリストを信じる信仰により、我らの罪を赦して義としたもう。」と、宗教改革以来の中心的な「信仰義任」の教義を明示する。
- 2、ところが、今日のテキストでは、「神の義」ではなくて、「あなたがたの義が」問題にされる。ここはマタイ福音書の特徴であり、大変大事な部分。マタイは「私の兄弟である小さいものの一人にしたのは私にしたのである」(25:40)と。旅人や病人や飢えている人への愛を教会に求める。「多くの人の愛が冷える」(24:12)と、マタイは彼の時代と教会の兆候を嘆く。この教会には愛の戒めを軽んじる人々がいたのだろう。
- 3、山上の説教でマタイは、「神の義を求めよ」(6:33)と締めくくりつつ、その義に「わたしたちも私たちに罪ある人々を赦しましたように」(6:12)と、行動したものの祈りをささげる。義に参与する事を含めて恵みは貫徹される。「あなたがたの義が、・・・優っていなければならない。」は量的契機が含意されている。「愛が冷えている」人達に向かって「イエスが教えた教えを実践するように」と促す。
- 4、さて、聖書の中には、二つの文書形式がある。パウロのローマの手紙のような「(神の義)教義型」の文書。マタイ福音書のように、人間の生き方を説く「(あなたがたの義)人間型」の文書。「牛に引かれて善光寺参り」型。
- 5、なだいなだ著『神、この人間的なるもの—「宗教をめぐる精神科医の対話」』岩波新書。この本は、なださんの友人河野裕明医師(カトリック)が、「断酒会」(あなたがたの義)という人間的なるものの中に宗教性(救い)を見る生き方を示唆している。「行う」は「完成する」(17)。我々の行いの小さい一つ一つのこと、神の義に繋がり、救いを満たしていく。
- 7、心に残るお話、幼稚園で見た映画「鹿の救いと一匹の蟻の物語」。